

日本アクティブ・ラーニング学会年次大会の発表原稿について

(1行空ける)

米田謙三^{*1}

荒木貴之^{*2}

白戸治久^{*3}

Kenzo YONEDA^{*1}

Takayuki ARAKI^{*2}

Naohisa SHIRATO^{*3}

^{*1}羽衣学園中学校高等学校 Hagoromo Gakuen Junior and Senior High School

^{*2}武蔵野大学 Musashino University

^{*3}英語運用能力評価協会 Association for English Language Proficiency Assessment

(1行空ける)

このひな形は、日本アクティブ・ラーニング学会の年次大会における論文集の標準の書式を定めたものです。標題は、「ゴシック系フォント12ポイント太字」で記載してください。1行空けて、「明朝系フォント10.5ポイント標準」にて、著者(漢字と英字)と所属を上例にならって表記してください。この段落は、発表要旨となります。「明朝系フォント10.5ポイント標準」にて、要旨は300字以内で記載してください。読点は全角で「、」、句点は全角で「。」を用いてください。

キーワード:研究会, 原稿, ひな形, フォント, 書式(5つ以内で記載してください)

(1行空ける)(以下, 原則2段組みとなります)

1. はじめに

日本アクティブ・ラーニング学会の年次大会の発表論文(研究発表論文および実践発表論文)は、このひな形の書式を標準として、A4版2枚の発表を受け付けることとします。2枚に満たない場合は、加筆をお願いすることもありますので、あらかじめご了承ください。なお、人権や著作権の侵害には細心の注意を払っていただきますとともに、剽窃や二重投稿の禁止等の学問的誠実性につきましても、遵守くださいますよう、よろしくお願いいたします。上記につきましても、研究委員会より修正のお願いをする場合がございます。その際にはご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

A4の標準書式については、「上下余白25mmずつ」「左右余白25mmずつ」「行数42～45行」とします。行数のみ変更可能といたします。

章節項の表記は、「1.」、「1-1.」、「1-1-1.」とし、「ゴシック系フォント10.5ポイント太字」で記載してください。章と章の間は、1行空けてください。

(1行空ける)

2. 研究の目的

図表の取り扱いにつきましては、以下の図1と表1の記載を参考としてください。なお、図につきましては、カラーでも構いませんが、ファイル全体で10Mバイトを超えないように、解像度を落とすなどしてから、投稿をしてください。ファイルサイズが、10Mバイトを超える場合には、研究委員会から修正のお願いをする場合がございます。その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

(1行空ける)

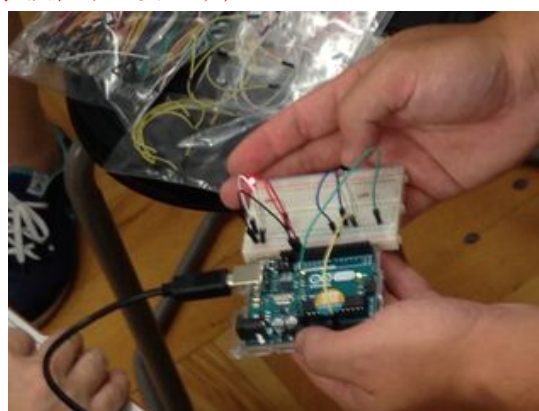


図1 写真データはカラーでも可能

(1行空ける)

表1 年次大会と研究会の日程

	日程	会場
年次大会	2018年3月25日	文京学院大学 本郷キャンパス
研究会	2016年12月24日	千代田女学園 中高

3. 発表申し込みと原稿の送付

3-1. 発表申し込み

2018年3月25日(日)に実施する日本アクティブ・ラーニング学会年次大会では、いくつかの分科会を設定します。分科会の紹介をご覧ください。ただき、発表するにふさわしいと思われる分科会を第2希望まで選び、発表をお申し込みください。

発表を申し込む際は、メールの件名を「【jALs2017-全国大会】(所属)・(名前)」として、taikai2017@jALs2030.netまで、お申し込みください。

メール本文には、「発表を希望する分科会(第1希望および第2希望)」「題名」「著者(連名者)・所属・連絡先メールアドレス」「要旨(200字以内)」を記載してください。

3-2. 原稿の送付

以下の日程にて、手続きを進めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

表2 手続き日程

	日程
発表申込	2018年2月2日
投稿締切	2018年3月2日

なお、原稿はMicrosoftのWordファイルとともに、PDFファイルを提出してください。WordファイルおよびPDFファイルは、双方事務局にてヘッダーおよびフッターの編集を行います。ヘッダーおよびフッターには何も記載しないでください。ページ番号も挿入しないでください。投稿の際は、編集のロックを外し、事務局で編集可能な設定にて投稿をお願いします。

4. 年次大会論文集の発行

提出していただいたPDFファイルを元に、年次大会論文集をPDFファイルで発行します。紙媒体での発行はいたしませんので、あらかじめご了承ください。なお、年次大会論文集につきましては、アクティブ・ラーニングの普及啓発という観点から、ダウンロード可能な形で学会ホームページに掲載し、広く社会や研究者に情報提供いたします。人権や著作権の侵害、剽窃や二重投稿に抵触することがないように、十分な配慮をお願いいたします。なお、上記に抵触する場合は、発表を取り消すとともに、学会ホームページに告知の上、該当箇所を削除いたします。

年次大会論文集の著作権は、日本アクティブ・ラーニング学会に属することとなりますので、ご了解ください。

5. 参考文献の記載順

参考文献は、著者の五十音順に記載してください。2行目以降は「1字下げ」としてください。

(科研費、補助金等を受けた研究であり、原稿中に記載する必要がある場合は、こちらをお願いします)

参考文献

Dale Basye, Stefanie Hausman, Peggy Grant and Tod Johnston (2015) Get Active: Reimagining Learning Spaces for Student Success, ISTE
荒木貴之(2010)日本発21世紀型教育モデル—つなぐ力が教育を変える。教育出版

:pp.50-56

米田謙三(2016)アクティブ・ラーニングでのICT活用. ELPA Vision No.03, 英語運用能力評価協会:pp.3

米田謙三, 荒木貴之, 白戸治久(2016)日本アクティブ・ラーニング学会趣意書. 日本アクティブ・ラーニング学会,
<http://jals2030.net/>日本アクティブ・ラーニング学会趣意書/(2016.10.17確認)